

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成25年12月12日(2013.12.12)

【公開番号】特開2012-132719(P2012-132719A)

【公開日】平成24年7月12日(2012.7.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-027

【出願番号】特願2010-283365(P2010-283365)

【国際特許分類】

**G 04 B 19/06 (2006.01)**

【F I】

G 04 B 19/06 B

G 04 B 19/06 N

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月25日(2013.10.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

光透過性を有する材料で構成され、一方の面に、入射した光を、反射・散乱させる機能を有する凸条が設けられた板状部材と、

光を反射する機能を有する粉末が多数個分散した分散層とを備え、

平面視した際に、前記板状部材と前記分散層とが重なり合うものであることを特徴とする時計用文字板。

【請求項2】

光透過性を有する材料で構成され、一方の面に、入射した光を、反射・散乱させる機能を有する凸条が設けられた板状部材と、

一方の主面に多数の角錐状の突部が設けられた層とを備え、

平面視した際に、前記板状部材と前記層とが重なり合うものであることを特徴とする時計用文字板。

【請求項3】

前記層は、前記突部として、三角錐状の突部を有するものである請求項2に記載の時計用文字板。

【請求項4】

前記層は、前記突部として、時計用文字板を平面視した際に、前記三角錐状の突部の底面の三角形の重心と、当該突部の頂点とが一致しない変形三角錐状突部を備えており、

前記変形三角錐状突部として、底面の三角形の一つの辺を共有する隣接する前記突部との間で、前記辺を含み時計用文字板の法線方向と平行な面を対称面とする対称関係、および／または、前記辺上の点を含み時計用文字板の法線方向と平行な線を対称軸とする対称関係を満足するものを有する請求項3に記載の時計用文字板。

【請求項5】

時計用文字板が備える前記突部のうち前記変形三角錐状突部の数の割合は、80%以上である請求項4に記載の時計用文字板。

【請求項6】

時計用文字板が備える前記変形三角錐状突部のうち前記対称関係を満足するものの数の割合は、70%以上である請求項4または5に記載の時計用文字板。

**【請求項 7】**

前記突部の底面は、二等辺三角形状をなすものである請求項2ないし6のいずれかに記載の時計用文字板。

**【請求項 8】**

前記凸条についての接線に垂直な方向でかつ前記板状部材の厚さ方向の断面における前記凸条の平均ピッチは、 $20 \mu m$ 以上 $100 \mu m$ 以下である請求項1ないし7のいずれかに記載の時計用文字板。

**【請求項 9】**

前記板状部材が有する前記凸条の平均高さは、 $10 \mu m$ 以上 $50 \mu m$ 以下である請求項1ないし8のいずれかに記載の時計用文字板。

**【請求項 10】**

前記板状部材は、時計用文字板を平面視した際に、同心円状に設けられた複数の前記凸条を有するものである請求項1ないし9のいずれかに記載の時計用文字板。

**【請求項 11】**

請求項1ないし10のいずれかに記載の時計用文字板を備えたことを特徴とする時計。

**【手続補正 2】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0006】**

このような目的は下記の本発明により達成される。

**【手続補正 3】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0007】**

本発明の時計用文字板は、光透過性を有する材料で構成され、一方の面に、入射した光を、反射・散乱させる機能を有する凸条が設けられた板状部材と、

光を反射する機能を有する粉末が多数個分散した分散層とを備え、

平面視した際に、前記板状部材と前記分散層とが重なり合うものであることを特徴とする。

これにより、従来表現することのできなかった毛皮調の外観を呈する時計用文字板を提供することができる。

**【手続補正 4】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【0008】**

本発明の時計用文字板は、光透過性を有する材料で構成され、一方の面に、入射した光を、反射・散乱させる機能を有する凸条が設けられた板状部材と、

一方の主面に多数の角錐状の突部が設けられた層とを備え、

平面視した際に、前記板状部材と前記層とが重なり合うものであることを特徴とする。

これにより、従来表現することのできなかった毛皮調の外観を呈する時計用文字板を提供することができる。